

百石町 下田町 合併協定調印式

2005/3/25 下田町民交流センターに於いて



合併協定調印式で祝辞を述べる三村正太郎百石町長



調印後互いに握手する、(左から)成田隆下田町議会議長・三村正太郎百石町長・三村申吾青森県知事・田中實好下田町長職務代理者(下田町助役)・佐々木光雄百石町議会議長



合併協定書に署名、捺印する三村正太郎百石町長(左)・田中實好下田町長職務代理者(下田町助役)



昭和50年代／春を呼ぶ豊年祭えんぶり



昭和50年代／町なかどつけにまわる一行



若宮八幡宮奉納摺り

県南地方に伝わる「えんぶり」は、昭和54年に国の重要無形民俗文化財に指定されています。「えんぶり」には、優雅でゆつくりとした型の「ながえんぶり」と、テンポが速く勇壮活発な型の「どうさいえんぶり」があります。「百石えんぶり」の歴史は、五戸町切谷内から伝えられたものと言われ正式名称は「五戸通り百石どうさいえんぶり」と呼ばれ、実に300年以上を誇る伝統芸能です。

大きな特徴となっています。2月14日えんぶり前日、若宮八幡宮に奉納されている烏帽子を町郷土芸能会館に移した時からまた納める18日まで関係者は肉類をいっさい口にできないというのも百石えんぶりならではの厳しい伝統でもあります。また、子供達が演じる「竹の子舞」「松の舞」「よろこび舞」「大黒舞」「えびす舞」があり、白い雪にひときは映える太夫たちの勇壮な舞に、きらびやかな衣装をまとった子供達の元気な舞が花を添えます。

厳冬の地に、えんぶりの拍子が響きわたり新しい春を呼び起こします。



大人から子供へ伝統芸能が受け継がれる